

## 日本の元気を農山漁村から

## 地域持続性を考える

農業——それは食料の安定供給だけでなく、地域社会の形成や里山の保全など、日本全体の土台を担う重要な産業です。しかし担い手の高齢化や都市部への流出などによる就農人口の減少によって、現在多くの問題を抱えています。

JALはこれまで農産物の海外販路開拓支援、JAL Agriport株式会社の設立など、日本の農業発展を推進してきました。

これに加えて昨秋からは、農林水産省の農山漁村振興交付金（地域活性化対策・人材発掘事業）を活用した『JAL農業留学2021』を行っています。減り続ける就農人口に歯止めをかけ、就農と地方移住を促進する取り組みです。

## JAL農業留学2021

JAL農業留学は、首都圏にお住まいの方を対象とする農業研修制度です。東北や九州の農山漁村に約2週間滞在します。

地域の人々と語り合う時間や、移住者からのレクチャー、地域の伝統文化などに触れる機会も設けられ、その土地で暮らすイメージを明確に持つことができます。プログラムになっています。例えば岩手県遠野市では、野菜・米・果樹農家での研修を中心に、東北一の生産量を誇る遠野市のわさび収穫体験や、集落営農なども視察しました。

世界遺産・白神山地の麓にある秋田県藤里町では、農業研修のほか、藤里のきれいな水を活用したクレン

ン栽培や川魚の養殖視察、林業体験も行っています。

## 地域を知って移住・就農・活性化

いずれの地域でも、農泊経営や6次産業化など、農業にまつわるトータルでのビジネスの可能性について学び、地域での暮らしをありのままに体験していただきました。

参加者からは「いわゆる観光農業体験ではなく、就農の成功例とともに現状や問題点も教えていただき、本当の農業に触れた感じがします」「毎日が充実し、2週間の経験で今後のビジョンがはっきりと見え始めました」といった感想が寄せられています。

## 地方移住&amp;就農を目指す方を応援します！

## 『JAL農業留学2021』第二期参加者募集中

短期農業研修『JAL農業留学2021』では、就農・移住に興味のある参加者を募集しています。現地に約2週間滞在し、地域の人々との交流や、さまざまな体験を通じて将来の移住や就農などのきっかけ作りをお手伝いします。

・長崎県平戸市／1月7日〆切  
・奄美大島大和村／1月21日〆切



<https://japan.jal.co.jp/nogyoryugaku/>

JAL地域事業本部で事業戦略部部長を務める澤田<sup>たかふみ</sup>敬文はこう語ります。  
「全国のヒト・モノ・地域をつなぐ航空会社としての知見をフルに活用しながら、地域に寄り添い、課題を解決するお手伝いができればと願っています。まずは魅力ある地域のことを多くの方に知っていただき、それをきっかけに2地域居住などの関係人口拡大につながる、第一次産業の発展や6次産業化、移住者の増加など、地域活性化が起る仕組みをつくっていききたいです」  
JALグループはこれからも、多様化する地域の課題に向き合いながら、さまざまな取り組みを続けてまいります。

今回のテーマに該当する目標



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。



座学で学ぶ酪農家直営のジェラート工房経営。



露地栽培の里芋収穫研修。



ミニトマトのハウス栽培研修。



『JAL農業留学2021』の参加者たち。岩手県遠野市にて、稲のはせ掛け(天日干し)。



就農人財を応援します！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS